



鳥取市総合教育センターだより

第5号 令和5年3月14日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL: 0857-36-6060
FAX: 0857-26-3878
E-mail:
kyo-center@city.tottori.lg.jp

つながり

所長 安田 直人

3月に入り、各地から卒業の便りが聞かれる時期になりました。本市においても、先週3月10日は中学校・義務教育学校で、また、今週末17日には小学校で卒業式が挙行され、来週24日の修了式で令和4年度の教育活動が締めくくられようとしています。総合教育センターのサポートルーム「すなはま」でも、来週20日に修了式を予定しており、本年度のまとめとするところです。

さて、その「すなはま」で先日、元気をもたらした出来事がありました。かつての「すなはま」通級生で現高3生と、1年前に「すなはま」を巣立った現高1生がセンターを訪れてくれたのです。きっと2人は「すなはま」が懐かしく、当時お世話になった教育指導員に会いにやって来たのでしょうか。気持ちを行動に起こしたこのことだけでも頼もしく感じたのですが、更にうれしかったのはこの後です。2人は恩師との話に花を咲かせると、次には後輩に高校生活のことなどを語り、現通級生たちも2人の話に興味津々にあれこれ尋ねたり耳を傾けたりしているのです！自分以外の他者に目を向け人となつがるさまは、まさしく「すなはま」がめざす姿そのものです。

「すなはま」にやってくる子どもたちは、人と関わるのが苦手であったり消極的であったりするので、担当教育指導員をはじめ、SSW や指導主事などセンター職員は、日々温かな気持ちで声をかけ、一緒に活動に加わりながら子どもたちとつながるよう努めています。また、「すなはま」では、一人ひとりのニーズに応じた学習のほか、人や社会、自然とかかわる体験活動を大切にしています。農園作業や調理実習、保育園や福祉施設での交流、手話体験などでは、事前の協同学習で準備・練習したことを発表・披露し、ポニー牧場や殿ダム、博物館、裁判所など地域の様々な場所や施設の訪問・見学では、自然の偉大さや美しさに出合ったり、文化・芸術に触れたり、社会への関心を高めたりしています。「すなはま」では、このような体験をとおして、子どもたちが自分と向き合い他者に共感したり、人や社会とのつながりを実感したり、やりきった達成感や充実感を感じたりする中で、徐々に心のエネルギーが蓄えられ、次第に自己肯定感が高まるとともに豊かな人間性や社会性が育まれていきます。

右の写真は、年1回の折り紙教室で「すなはま」の子どもたちが共同制作したのですが、実は3年分がつなぎ合わせられています。昨年は中央の令和2年度作品の右につながる作品を、そして今年は左につながる作品を制作しました。在籍校や学年、「すなはま」への通級期間の異なる子どもたちの、縦横の心のつながりが感じられる温かく素敵な作品です。



総合教育センターでは新年度も、サポートルームの子どもたちを社会的自立へとつなぎ、研修と学校をつなぎ、関係機関と学校、相談者と学校をつなぐ役割をしっかりと果たしてまいります。1年間ありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される時期もありましたが、皆様の御理解と御協力のおかげで、本年度は全ての教職員研修を無事実施することができました。感謝申し上げます。

全ての研修を終えた12月下旬から1月6日までの2週間、今後の教職員研修をさらによりよいものとするを目的に、全常勤教職員を対象にした教職員研修アンケートを実施しました。アンケート結果からは、自己有用感の育成に関する取組に成果がみられる一方、「魅力」と「徹底」に係る授業改善や ICT の活用に関する取組など、来年度に向けた課題もみられました。

今後も、アンケートで皆様からいただいた貴重な御意見をもとに、教師力アップ・学校力アップをめざした教職員研修を実施していきます。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 教職員研修アンケートのまとめ

項目Ⅰ-1・2、項目Ⅱ-1・2 4段階評価（青:できた 赤:ややできた 黄:あまりできなかった 緑:できなかった）
 項目Ⅱ-3・4、項目Ⅲ-1・6 2段階評価（青:できた 赤:できなかった） ※水色縦線…目標値

令和4年度 教職員研修の成果と課題

重点項目	具体的な姿	令和4年度結果
自己有用感の育成	1 児童生徒が豊かなかかわりの中で自分や周りの人のよさに気づくような手だてを講じた	23% 72% 5% 90%
	2 スクリーニングやアセス、QU等の諸検査結果を支援に活かした	24% 58% 16% 2% 90%

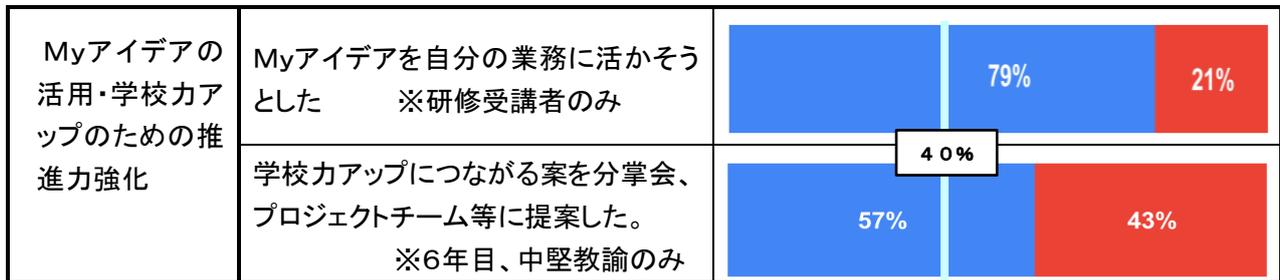
1では、肯定的回答が目標値を越えています。また、キャリアステージが上がるとともに「できた」と回答する割合は増加していました。特に学級づくり研修の受講対象である3年目の者を含む育成期以降から向上期にかけて肯定的回答が高くなっています。また、2の結果から、諸検査等の結果分析や児童生徒の実態把握をより効果的な支援に結び付けていくことが大切であると考えます。

学力向上	1 学習意欲を高めるために、前時の振り返りから児童生徒と共に具体的なめあてづくりを行った	19% 56% 23% 2% 80%
	2 学習内容の定着を図るための時間を、毎時間設定していた	26% 59% 14% 1% 90%

目標値に到達していませんが、1では「できた」、2では「できた」「ややできた」を合わせた肯定的回答の割合が昨年度よりそれぞれ増加しています。しかし、どのキャリアステージにおいても否定的回答が2～3割程度あり、授業づくりについて課題意識を持った教職員もいることがうかがえます。経験年数にかかわらず「魅力」を意識した授業に向けた授業改善をよりいっそう進められるよう、教職員研修等を通じて支援していきたいと考えています。2では、向上期で目標値を達成しました。タイムマネジメントや ICT を活用した授業づくりとも関連させながら、「徹底」を意識した授業づくりについても支援していきたいと考えています。

ICT活用	1 ICTを活用する授業が行えるように研修(校内も含む)を受けた	87% 13% 90%
	2 児童生徒が1日に2回以上ICTを活用している授業を行った	42% 58% 60%

3は、どのキャリアステージでも肯定的回答の割合が高くなっていました。一方で、否定的回答もあることから、サポート研修や「ICTを活用した授業づくり研修」で各校が作成した具体的活用場面をまとめた成果物を活用してもらおう等、校内研修の支援をよりいっそう行います。4は、キャリアスタート期から向上期にかけて肯定的回答の割合は増加傾向にあります。向上期をピークに充実期後半にかけて肯定的回答が減少していました。Ⅱ―5「児童生徒が互いの考えを交換し、共有した話し合いができるようにタブレット端末等を活用している」の肯定的回答も低かったことから、児童生徒同士の協働的な学習場面での ICT 活用がさらに推進されるよう教職員研修の内容を工夫することも考えています。



1は、目標値を大きく上回りました。受講者は研修後に毎回 My アイデアを記入しますが、研修での学びから生まれた My アイデアを実際の業務に意欲的に活かそうとしていることがうかがえます。また、6でも肯定的回答の割合が目標値を達成しました。受講者の学びや意欲を学校カアップへつないでいくためには、向上期、充実期前期となる6年目と中堅教諭による学校全体を広く見渡した実践が大切であると考えています。限られた時間の中で、研修での学びをより多くの教職員間で共有できるよう、My アイデアシートの記入項目の精選・スリム化を図る等、総合教育センターとして「My アイデアシート」の活用に向けた取組を今後も行っていきたいと考えています。

＜教職員研修を活用して「My アイデア」からの実践例＞

～ Ⅲ―2「『My アイデアを職場で共有し、活用しようとした』に『できた』と回答した方どのように活用しようとしたのかお答えください(自由記述)」より ～

＜キャリアスタート期＞

○研修したことや研修を通して考えたことを先輩の先生に伝えることで、逆に先輩の先生方のお話を伺う機会となり、日々の実践に生かすことができた。

＜育成期＞

○鳥取市学校司書・司書教諭研修での My アイデアとして、ICT と図書をバランスよく使った学習をまずは自らが実践し、校内に広めていくことを考えた。実際に国語科や生活科の学習で図書を用いて調べ活動を行い、タブレットで共有・表現する学習を計画し、実践することができた。

○研修で授業改善の視点をすることができました。めあてとねらいの一貫性や発問の仕方、タイミングなどを学年主任の先生と相談をしながら日々の授業の準備をすることができた。

＜向上期＞

○特別支援教育の研修で学んだことを学校の研修で共有した。通常学級における特別な支援のいる児童について目標の立て方や支援の方法などを伝えた。

○研修をもとに、学習の流れを示すアイテムを作成し、全学年の黒板に貼り授業で使用した。その結果、学校全体で共通した授業展開ができ、学び合いや適用題の時間が確保できた。

＜充実期前半＞

○中堅教諭等資質向上研修で持ち帰ったアイデアをメンター研修の際に共有した。

○中堅教諭等資質向上研修で学んだ内容から自校の研究にリンクできそうな考え方を精選し、職員会や主任会、メソッドプロジェクト会議で紹介した

＜充実期後半＞

○まず、校長先生に報告をし、学んだことを学校づくりにどう活かせるか協議した。それを受けて職員研修を企画し、研修で学んだことを伝達したりそのことをもとに校内研究や児童理解、業務改善に活かしたりした。

○支援が必要な児童への指導に苦慮しておられる先生方に対して指導の方策が一つではないことを示唆したり、具体的な対応事例を紹介したりすることができた。また、研修の中で案内があった文献を購入して紹介し、全教職員に対して情報の共有を図った。

○幼保小中研修で扱われた幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿について職場で共有し、幼児期の子どもの学びについて職員に関心をもってもらい、来年度の教育課程や授業づくりに生かしていこうとした。

下の表は令和5年1月末までの鳥取市小・中・義務教育学校の不登校児童生徒数の集計です。年々、不登校児童生徒数は増加傾向にあります。不登校の要因や背景、不登校である期間等、個々の状況は様々であり、支援のニーズも多岐に渡ります。不登校児童生徒が社会的自立に向けた力を身に付けていくためにも、本人や保護者等が学校はもちろん関係機関等も含め、誰かとつながっていることが大切になってきます。本市の小・中・義務教育学校では令和5年1月末現在で約86.4%の不登校児童生徒が教員以外の支援につながっていることが分かっています。

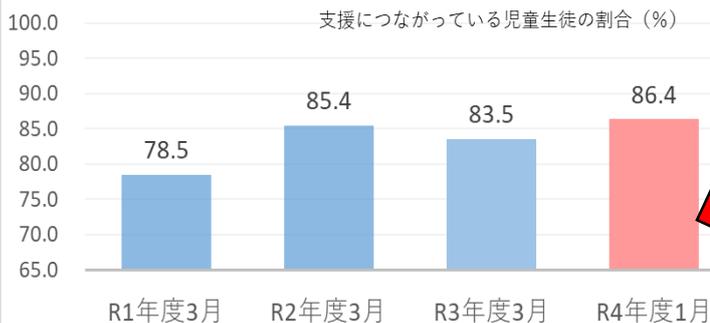
鳥取市の小・中・義務教育学校の各学年の不登校分類児童生徒数・出現率 (令和5年1月末現在)

	小学校・義務教育学校前期課程						中学校・義務教育学校後期課程			小学校 合計	中学校 合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年		
30日以上人数	10	14	25	26	42	54	76	99	101	171	276
30日以上出現率	0.64%	0.92%	1.58%	1.67%	2.49%	3.47%	5.12%	6.69%	6.42%	1.81%	6.08%
20～29日	0	2	4	5	6	2	11	10	11	19	32
7～19日	5	10	11	12	14	12	27	26	24	64	77

※小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程を含む

<市全体>

不登校児童生徒数に占める教員以外（SC・SSW等も含む）の



教員以外での支援の状況 (複数回答可)

機関名・職種	サポートルーム	児童相談所等 福祉機関	医療機関	スクールカウンセラー	児童生徒相談員等	スクールソーシャルワーカー	フリースクール	I・T等を活用した 自宅学習支援	その他 法務少年支援センター等
小学校	5	42	86	59	27	38	9	3	63
中学校	8	56	123	100	58	23	13	3	13

教員以外での支援につながる場合、スクールカウンセラーが相談の入口になることが多く、児童生徒へのカウンセリングや保護者への助言、援助などを行っています。また、最近では、スクールソーシャルワーカーが学校からの相談を受け、児童生徒や保護者等と面談を行い、福祉機関や専門機関へつなげたり、福祉サービスの情報提供をしたりするケースも増えてきています。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーはチーム学校の一員として児童生徒の課題解決に取り組んでいます。

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーって何をする人？

スクールカウンセラー (SC) の職務内容

- (1) 児童生徒へのカウンセリングや保護者への助言・援助
- (2) 児童生徒、学級や学校集団に対する見立てと教職員への助言・援助
- (3) 不登校、いじめ等を認知した際の援助、自然災害、突発的な事件・事故等への緊急支援 等

スクールソーシャルワーカー (SSW) の職務内容

- (1) 学校内におけるチーム支援体制の構築及び支援 (ケース会議、スクリーニング会議等へ参加し、見立てと課題解決へサポート等)
- (2) 様々な課題を抱える児童生徒と課題解決に向け、児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- (3) 関係機関とのネットワークの構築、連携・調整 等

相談したい児童生徒や家庭に対して、必要に応じて、学校とスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、LD等専門員等と連携しながら、適切な見立てを行い、具体的な支援につなげていくことが大切です。